

# ゆうやけ子どもクラブ 放課後等デイサービスガイドライン評価結果分析

2026年1月22日

## 1. 集計結果

### ○回答数

- ・保護者による評価 14人（14人中）
- ・職員による自己評価 11人（11人中）

### ○実施期間

- ・2026年1月5日～16日

### ○評価の数値状況

\*別紙を参照

## 2. 分析・討議

### ○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」の項目には、「子どもの気持ちをいつも優先してもらい、感謝している」という意見がある。子ども1人ひとりを深く理解し、勘どころを押さえた働きかけに努めていることが評価されているのだろう。引き続き、その子に即した子ども理解に努めていきたい。
- ・「活動に満足しているか」の項目には、「おやつ作りなど、準備がたいへんそうなこともしてもらい、子どもも喜んでいる」という意見がある。おやつ調理などは、楽しみな見通しを持つるとともに、試行錯誤しながら取り組むことで、現実と自分の思いのあいだに折り合いをつける活動となっている。子どもの興味・関心も引き出しながらメニューを考えて、引き続き取り組んでいきたい。
- ・「親子行事、きょうだいの会など、保護者や家族が交流できる機会が工夫されているか」の項目には、「行事が苦手だったが、楽しく参加できるように声かけしてもらい、よい思い出をつくれた」という意見がある。全体的な行事は、衆目が集まる活動であるため、みんなにどう見られているかに過敏な子どもは参加しにくい場合がある。その子なりの役割を果たせる出番も用意するようにしてきた。その子への理解にもとづいた活動を、引き続き工夫していきたい。

### ○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「利用定員は、指導訓練室などの面積との関係で適切であるか」の項目には、「本来20定員の指導訓練室で、10人の定員で実施しているため、十分に広い」という意見がある。20人定員の報酬単価が低いため運営が成り立たず、やむをえず2024年度より10人定員に変更した。部屋の広さを生かして、十分に心身を動かす活動に取り組んでいきたい。
- ・「子どもの活動の記録を書いているか」の項目には、「記録は、事実にもとづき、子ども発見をし、意味づける上で重要だと考え、取り組んでいる」という意見がある。記

録は、子どもの内側を発見した事実や、その意味付けを書き留めることで、その子を深く理解することにつながる。また、他の職員たちに、子ども理解の事実と意味づけについて問題提起を行なうこともできる。実践の要に位置づけて、引き続き取り組んでいきたい。

- ・「子どものことがわからないと感じたとき、独りよがりの判断をせず、ほかの職員に意見を聞くなどしているか」の項目には、「もう少し聞いていきたい」という意見がある。子ども1人ひとりを深く理解するためには、事実を持ち寄って意味づけ合う事例検討などの、職員間の語り合いが非常に大事である。こうしたことを引き続き取り組んでいきたい。
- ・「子どもの“問題行動”に出会うとき、その内側に、その子の本当の願いが隠されていると考えて、内面を探ろうとしているか」という項目には、「問題行動には、その子の内面の願いが込められている。成長するからこそ矛盾を抱え込む視点を大事にしたい」という意見がある。子どもは、自分の思いを突き出せるようになったからこそ、大人の意図とぶつかるなど、育つことで、新たな矛盾を抱え込むことがある。否定的にも見える行動の内側に込められた、その子の願いを汲み取って活動することを、職員間でいっそう共有していきたい。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」の項目には、「外部学習会には積極的に参加している。特に、若い人を誘うように努力している」という意見がある。コロナウイルス感染問題が起こった時期以降、外部の学習の機会に参加することが難しくなりつつあるため、若い人を育成していく観点からも、意識的に誘い合って学習することを大切にしたい。
- ・「保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取っているか」の項目には、「保護者の悩みや感想を十分に聞き取るとともに、子どもの見方についての提案もしている」という意見がある。保護者の中には、「子どもが家庭で親に反抗して困っている」などという悩みが寄せられることがある。その声を十分に聞き取って、子育ての苦労に共感するとともに、その苦労が、子どもの育ちに過程でどんな意味を持つのか提起して、対応をともに考えることに引き続き取り組んでいきたい。

### 3. 改善目標

#### ○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子ども1人ひとりを深く理解して、その子の内側に込められた願いに即した活動に取り組んでいくことを、引き続き大切にしたい。そのためには、事例検討をしたり場面記録を書いたりする研修を重視するともに、財政的な限度はありながらも、必要とする人数の指導員を配置できるように努めたい。
- ・保護者や家族が、子どもを真ん中に置きながら交流する機会を引き続き設けていきたい。父親やきょうだいも活躍できるような出番や役割をつくり出すことを取り組んでいきたい。

#### ○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。

- ・子ども1人ひとりを深く理解することは、実践の基本として大事にしていきたい。そのために、(この子って、こんな子だったんだ！)という発見の事実を出し合って、その意味を集団的に検討するための事例検討を引き続き行なっていきたい。また、そうした子ども理解の認識を深めるとともに、ほかの職員に問題提起をしていくための場面記録を書くことも大事にしていきたい。
- ・講師の話を聞くような座学については、実際にその場に参加するほうが、実感を持って内容を吸収しやすいため、誘い合って参加することを大事にしていきたい。同時に、オンラインやアーカイブなども活用していきたい。
- ・働く保護者が増えている中で、さまざまな家族の事情も重なって、家庭での子育てには、大きな苦労が伴う。保護者の話を親身に聞くことを、ちょっとした立ち話も含めて、引き続き大事にしたい。定例の個別面談以外でも、必要とされる相談に、引き続き応じていきたい。

#### 4. 公表方法

- 保護者・職員への文書の配布（2026年1月31日より）
- ホームページへの掲載（2026年1月31日より）